

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 愛知県美術館【愛知・名古屋】(<https://www.artaac.pref.aichi.jp/exhibition/000431.html>)

1月16日(土)～4月14日(日)

企画展:コレクションズ・ラリー 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 共同企画

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館のコレクションを合わせると、その数は17,000件以上にのびます。本展は、そのなかから両館の4人の学芸員がそれぞれ独自の視点でテーマを立ててご紹介する、オムニバス形式の展覧会です。同じ愛知県立の美術館同士ですが、意外にもこのように大きな規模での共同企画を行うのは初めてのこと。愛知県陶磁美術館が休館中(2025年4月に再開予定)だからこそ実現したこの企画、2館のコレクションが会うことで生まれる作品同士の共鳴を是非ともお楽しみください。



2. 瀬戸市美術館【愛知・瀬戸】(<http://www.seto-cul.jp/information/index.php?s=1701307742>)

12月2日(土)～4月14日(日)

企画展: 瀬戸市美術館企画展「瀬戸の近代陶磁」

瀬戸で磁器の製造が開始されたのは、江戸時代後期のこととされ、瀬戸村においては享和元年(1801)、加藤唐左衛門や加藤吉右衛門ら16名が陶器から磁器生産へ転業し、文化四年(1807)、加藤民吉が九州から磁器製造にかかる技術を持ち帰ったことで、生産が拡大しました。窯屋たちは藩の保護の下、陶磁器製品の生産量等を管理していましたが、明治維新による廃藩と共に、蔵元制度や窯株制度が撤廃されました。これにより窯屋の経営が一時は困窮するものの、自由競争での陶磁器生産ができるようになったことで、徐々に活力を取り戻していきます。明治時代になると、日本政府は殖産興業を押し進めるとともに、美術工芸品の海外輸出にも力を入れました。また、政府は欧米で盛んに開催される万国博覧会に積極的に参加し、瀬戸からは豪華絢爛で技巧的な染付磁器が出品され、数々の賞を受賞しました。また、瀬戸で素地を製作し、東京、横浜、名古屋などで上絵付を行った製品も数多く海外に輸出されました。



優美かつ精緻な上絵付は各国の関心を集め、欧米におけるジャポニズムの発展の一翼を担います。それと同時に、欧米の窯業技術の習得にも力を入れていきます。酸化コバルトによる染付の絵付や石膏型を使用した成形法など西洋の窯業技術が瀬戸にもたらされ、今まで培ってきた技術と相まった新たなやきものづくりへと発展していきました。本展では、海外で高い評価を得た明治時代の瀬戸の陶磁器48点を展示します。当時の最先端技術によって製作され、瀬戸が世界に誇ったやきものの魅力をご紹介します。

3. 永青文庫【東京・文京区】(<https://www.eiseibunko.com/exhibition.html#2023fuyu>)

1月13日(土)～4月14日(日)



早春展「中国陶磁の色彩—2000年のいろどり—」

本展では、主に護立の蒐集品より重要文化財3点を含む優品を展示し、唐三彩(とうさんさい)、白磁、青磁、青花(せいいか)、五彩(ごさい)など、色をテーマに中国陶磁を紐解きます。あわせて、近代の洋画家・梅原龍三郎(うめはらりゅうざぶろう)(1888～1986)や、河井寛次郎(かわいかんじろう)(1890～1966)、宇野宗鶴(うのそうよう)(1888～1973)といった陶芸家が中国陶磁を研究、題材にした作品を紹介します。紀元前から近代まで、色とりどりの多彩なコレクションをご堪能ください。

4. 多治見市美濃焼ミュージアム [岐阜・多治見]

1月4日(木)～3月3日(日)

企画展: 思春期の心

多治見中学校3年生の茶碗 2024

令和5年5月、昨年度に続き、多治見中学校で、「特別鑑賞会」を実施しました。これは、17世紀につくられた本物の「黒織部茶碗」「鳴海(なるみ)織部茶碗」を学校へ持ち込み、3年生約170人が中庭で手に取って鑑賞するというものです。

3年生約170人は、こうして「唯一無二」「破格」の器を両の掌に抱き、本物のもつ造形のすごみを感じました。その後、美術の授業で ①電動ろくろによる成形 ②両の掌で自分らしく変形 ③絵付け ④施釉 ⑤焼成により完成した作品を今回64点展示します。また、鑑賞した織部茶碗などを同時に展示します。今回は、展示スペースの関係で代表者による展示となりましたが、一人一人の思いのこもった作品が並んでいます。ぜひご覧ください。

企画展

思春期の心

多治見中学校3年生の茶碗 2024

令和5年5月、多治見中学校で、昨年度に続き「特別鑑賞会」を実施しました。

これは、美術科で卒業記念の茶碗をつくるにあたって、郷土のやきもの、美濃桃山陶を本物から学ぼうという、授業の一環として実施したものです。

鑑賞する茶碗は、当館所蔵の織部焼の2碗（黒織部茶碗、鳴海織部茶碗ともに17C）で、3年生約170人が、織部の個性的な茶碗を両の掌に抱いて鑑賞しました。（下写真）この鑑賞会で大切にしたのは、表現の基礎となるのは「感動体験」であり、そのためには本物のもつ絶対的な価値を自然に、効果的につかみとるということでした。

バーチャルな体験が誰でも簡単にできるようになった今日だからこそ、実物を身近で見たり感じたりすることが、ますます重要になってきていると考えた実践でした。これは、実物展示を使命としている博物館、そして当館にとって、教育施設としての立場を展望するうえで、大きなテーマとしているところです。

今回、こうした授業の導入から始まった、多治見中学校3年生の心の振幅が感じ取れる生徒の作品と、授業で鑑賞した本物2碗を共に展示して、その意味・意義を検証します。これで3回目となる企画です。

会期

■令和6年1月4日(木)～3月3日(日)

会場

■多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーS1

主催

■多治見市美濃焼ミュージアム

開館時間

■9時～17時（入館は16時30分まで）

休館

■月曜日（祝日の場合は翌平日）年末年始（12/29～1/3）

観覧料

■一般 320円（260円）、大学生 210円（150円）、〇内は団体料金（20名様以上）

※高校生以下、障害者手帳の交付を受けている方とその付添いの方1名は無料

連絡先

多治見市美濃焼ミュージアム 学芸員 岩城鮎美 岩井 利美（館長）

岐阜県多治見市東町 1-9-27

電話：0572-23-1191 FAX: 0572-23-4538

E-Mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp



鳴海織部茶碗17Cの鑑賞風景

5. 多治見市美濃焼ミュージアム [岐阜・多治見] (https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/6078)

2月17日(土)～4月21日(日)

第3回 全国やきもの甲子園 入賞・入選作品展

1300年の歴史を刻んできた美濃焼の産地・岐阜県多治見市を舞台に、令和5年の秋冬、高校生たちのやきものコンテストが開催されました。第3回目となる今回は「挑め、君だけの土と炎」をテーマに、北は北海道から南は沖縄まで全国各地から129点もの作品がエントリーされました。そこからは、作り手の生きる地の風土や、制作へ突き動かす動機付けがありありと感じられます。やきものに魅せられ青春をかける若き高校生たちの作品のうち、入賞・入選作品を今回は多治見市美濃焼ミュージアムにて展示します。やきものの将来を担う若い世代の作品をご覧ください。

